

## \* adl モデルプラン GX志向型住宅〈6地域〉

### 一次エネルギー消費削減率 給湯器比較〈算定プログラム VER. 3.9.0〉

〈主たる居室:エアコン E消費効率区分(い)設置、その他の居室:エアコン 設置しない〉

太陽光発電 パネル傾斜:20度 パネル方位:真南から 東および西へ15度未満 	エネファーム	ハイブリッド	エコキュート	エコジョーズ
	<p>※削減率の結果は例であり断熱等の性能や、プランに応じて数値は異なります</p> <p><b>*主たる居室:エアコン(い)</b></p> <p>再生可能エネルギー等を加えた削減率 GX基準:100%</p> <p>再生可能エネルギー等を除いた削減率 GX基準:35%</p> <p>太陽光発電システム容量 システム容量 kW</p>	 <p>パナソニック(株) アプライアンス社 FC-70NR13T /FC-GUNR13T</p>	 <p>電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機 /フロン系冷媒 /タンク容量(大)</p>	 <p>JIS効率:3.5 昼間沸上げ時間帯の制御: 開始時刻制御 昼間消費電力量比率:80%</p>
	<b>114%</b>	<b>109%</b>	<b>108%</b>	<b>100%</b>
	<b>47%</b>	<b>42%</b>	<b>41%</b>	<b>33%</b>
	<b>3.3kW</b> 〈EFは2.6kWで、ZEH達成〉	<b>3.3kW</b> 〈HBは2.85kWで、ZEH達成〉	<b>3.3kW</b> 〈ECは2.9kWで、ZEH達成〉	<b>3.3kW</b>

## \* adl モデルプラン GX志向型住宅〈6地域〉

### 一次エネルギー消費削減率 給湯器比較〈算定プログラム VER. 3.9.0〉

省エネ地域区分 /年間日射地域区分	6地域 / 年間日射地域区分 A4区分			
	主たる居室	その他居室	非居室	計
床面積	28.49m <sup>2</sup>	36.00m <sup>2</sup>	32.52m <sup>2</sup>	97.01m <sup>2</sup>
外皮基準	外皮平均熱貫流率(UA) : <b>0.46 W/m<sup>2</sup>K</b>			
	外皮総面積 : <b>263.25m<sup>2</sup></b>			
一次エネルギー消費量 算定用数値	日射熱取得量(暖房期 η AH) : <b>1.0</b>			
	日射熱取得量(冷房期 η AC) : <b>1.3</b>			

住宅の外皮平均熱貫流率及び平均日射熱取得率（冷房期・暖房期）計算書

- H28年省エネルギー基準に基づく（木造戸建て住宅） -

1) 基本情報の入力

住宅の名称	GX志向型住宅 adl モデルプラン 外皮性能計算書		
住宅の所在地		(地域区分)	6地域
住宅の規模	地上	2 階	、地下 0 階

2) 計算結果

外皮等面積の合計( $\Sigma A$ )	263.25 m <sup>2</sup>	冷房期の平均日射熱取得率( $\eta_{AC}$ )	1.3
外皮平均熱貫流率( $U_A$ )	0.46 W/(m <sup>2</sup> K)	暖房期の平均日射熱取得率( $\eta_{AH}$ )	1

3) 省エネルギー基準外皮性能適合可否結果

	計算結果	基準値	判定
外皮平均熱貫流率( $U_A$ )	0.46 W/(m <sup>2</sup> K)	0.60 W/(m <sup>2</sup> K)	適合
冷房期の平均日射熱取得率( $\eta_{AC}$ )	1.3	2.8	適合

●	等級5
○	等級4
○	等級3
○	等級2

注1: 本計算シートの計算方法は、(国研)建築研究所が示す外皮性能の計算方法を原則遵守しています。

注2: 内訳計算シートAは、住宅の外壁の面する方位別のシートに入力してください。

注3: 各シートの **黄色** 部分に入力するか、あるいはドロップボックスから選択してください。

注4: 各シートに入力する寸法は、メートル単位で入力して下さい。

注5: 本計算シートでは計算式の誤削除を防止するため、シートを保護しています。

※1 建具の仕様、ガラスの仕様および付属部材の組み合わせに応じた日射熱取得率を直接入力して下さい。

# 地域区分別対応等級別 開口部・断熱材仕様一覧

## 5・6・7地域

	開口部仕様		断熱材仕様				UA 設計値
	窓	玄関ドア	メーカー	天井/屋根	壁	床/基礎 <sup>*4</sup>	
<b>等級7</b> 高性能トリプルガラス樹脂窓 <b>APW 430</b> ダブルLow-Eガス入/ ニュートラル/ 樹脂スペーサー	イノベスト D50 樹脂複合枠仕様 採光付	 <b>旭ファイバーグラス</b> AsahiKASEI 旭化成建材	【天井】 アクリアαR71 250mm (λ=0.035)	アクリアウルα36K 105mm (λ=0.032) (付加)ネオマフォーム 100mm (λ=0.020)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)ネオマフォーム 90mm (λ=0.020)	<b>0.26</b>	
		 <b>MAG</b> ISYNER SAND OCEAN	【天井】 イソパール・スタンダード (GWHG24-35) 155mm×2層(310mm) (λ=0.035)	イソパール・コンフォート (GWHG36-32) 105mm (λ=0.032) (付加)ネオマフォーム 100mm (λ=0.020)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)ネオマフォーム 90mm (λ=0.020)	<b>0.26</b>	
		 <b>AQUA</b> NIPPON	【屋根】 アクアフォームLITE 350mm (λ=0.036)	アクアフォームNIFO 85mm (λ=0.021) (付加)ネオマフォーム 100mm (λ=0.020)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)ネオマフォーム 90mm (λ=0.020)	<b>0.25</b>	
		 <b>Achilles</b>	【天井】 アクリアαR71 250mm (λ=0.035)	高性能ガラスウル20K 105mm (λ=0.035) (付加)キューワンボード 50mm×2層(100mm) (λ=0.021)	【べた基礎】 (立上り)キューワンボード 内50mm×2層(100mm) (λ=0.021) (土間折返し)キューワンボ ード内50mm W=900mm (λ=0.021)	<b>0.26</b>	
		 <b>BLP</b> BASF INOAC POLYURETHANES	【屋根】 フォームライトSL-100 340mm (λ=0.034)	フォームライトSL-100 100mm (λ=0.034) (付加)フェノバボード 60mm (λ=0.019)	【床】 <sup>*1</sup> (根太間)フェノバボード 45mm (λ=0.019) (大引間)フェノバボード 90mm (λ=0.019)	<b>0.26</b>	
		 <b>DUPONT</b> デュポン・スタイロ株式会社	【屋根】 スタイロスプレーフォームR 90mm (λ=0.026) (付加)スタイロフォームTG 100mm(積層 50mm+50mm) (λ=0.022)	スタイロスプレーフォームR 80mm (λ=0.026) (付加)スタイロフォームTG 75mm (λ=0.022)	【べた基礎】 <sup>*2</sup> (立上り)スタイロフォーム AT外100mm (λ=0.028) (土間折返し)スタイロフォー ムAT内50mm W=900mm 以上 (λ=0.028)	<b>0.26</b>	
		 <b>FUKUVI</b>	【屋根】 フェノバボード 60mm (λ=0.019) (付加)フェノバボード 60mm (λ=0.019)	フェノバボード 60mm (λ=0.019) (付加)フェノバボード 90mm (λ=0.019)	【床】 <sup>*1</sup> (根太間)フェノバボード 45mm (λ=0.019) (大引間)フェノバボード 90mm (λ=0.019)	<b>0.26</b>	
<b>等級6</b> 高性能樹脂窓 <b>APW 330</b> Low-Eガス入/ 遮熱ブルー/ 樹脂スペーサー	ヴェナート D30 D2仕様 採光付	 <b>旭ファイバーグラス</b> AsahiKASEI 旭化成建材	【天井】 アクリアR57 200mm (λ=0.035)	アクリアネクストα20K 105mm (λ=0.034)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)アクリアUボード ビンレスS20K 90mm (λ=0.036)	<b>0.46</b>	
		 <b>AsahiKASEI</b> 旭化成建材	【屋根】 ネオマフォーム 100mm (λ=0.020)	(外張り)ネオマフォーム 60mm (λ=0.020)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)ネオマフォーム 66mm (λ=0.020)	<b>0.45</b>	
		 <b>MAG</b> ISYNER SAND OCEAN	【天井】 イソパール・スタンダード (GWHG16-38) 155mm (λ=0.038)	イソパール・コンフォート (GWHG36-32) 105mm (λ=0.032) (付加)付加断熱ボード 45mm (λ=0.035)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)床トップ別床 80mm (λ=0.036)	<b>0.41</b>	
		 <b>AQUA</b> NIPPON	【屋根】 アクアフォームLITE 320mm (λ=0.036)	アクアフォームLITE 85mm (λ=0.036)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)ネオマフォーム 90mm (λ=0.020)	<b>0.46</b>	
		 <b>Achilles</b>	【屋根】 (外張り)キューワンボード 61mm (λ=0.021)	(外張り)キューワンボード 50mm (λ=0.021)	【べた基礎】 (立上り)キューワンボード 内50mm (λ=0.021) (土間折返し)キューワンボ ード内50mm W=900mm (λ=0.021)	<b>0.46</b>	
		 <b>BLP</b> BASF INOAC POLYURETHANES	【屋根】 フォームライトSL-100 280mm (λ=0.034)	フォームライトSL-100 85mm (λ=0.034)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)フェノバボード 90mm (λ=0.019)	<b>0.46</b>	
		 <b>DUPONT</b> デュポン・スタイロ株式会社	【屋根】 (外張り)スタイロフォームFG 75mm (λ=0.022)	(外張り)スタイロフォームFG 75mm (λ=0.022)	【べた基礎】 <sup>*2</sup> (立上り)スタイロフォーム AT外50mm (λ=0.028)	<b>0.42</b>	
		 <b>FUKUVI</b>	【屋根】 フェノバボード 90mm (λ=0.019)	フェノバボード 80mm (λ=0.019)	【床】 <sup>*1</sup> (大引間)フェノバボード 90mm (λ=0.019)	<b>0.46</b>	

【算出条件】解析No:00085

●住宅モデル:2階建て/延床面積 120.08㎡/開口部面積 25.2㎡(1~3地域)、32.2㎡(4~8地域)|平成25年省エネルギー基準に準拠した算定・判断の方法及び解説||住宅|標準住戸のプラン

※ページ右上のQRコード(<https://lp.ykkap.co.jp/1347-Download.html>)から各社の仕様書がダウンロードできます。

\*1 土間床の詳細はページ右上のQRコードからご覧ください。\*2 大引は105mm厚を想定しています。\*3 基礎の総熱貫流率:任意評定の値を使用。\*4 基礎・土間床等は、新計算法を使用。

※本仕様内容は設計上の目安であり、実性能を担保するものではありません。詳細については、各メーカーまでお問い合わせください。

# \*GX志向型住宅とは〈開口部の仕様例〉自己適合宣言書

〈平成28年省エネルギー基準対応〉		JIS Q 17050-1に基づく自己適合宣言書(附属書)	
自己適合宣言書番号	APS0001	附属書番号	APF0014-7
発行者の名称	YKK AP株式会社		
作成日	2016年12月28日	改訂日	2022年4月1日
商品	APW330(Low-E複層ガラス)		
仕様	アングル付、アングル無(アングル付同等納まり)		
窓種	・引違い窓(2枚建 W≤1.870) ・面格子付両袖片引き窓 ・面格子付引違い窓(2枚建) ・シャッター付引違い窓(2枚建 W≤1.870) ・片引き窓 偏芯タイプ、均等タイプ ・両袖片引き窓 ・片引き窓・両袖片引き窓 FIX段窓 ・面格子付片引き窓 偏芯タイプ、均等タイプ		

■本附属書について  
 ・本附属書は、対応する自己適合宣言書とあわせてご使用ください。  
 ・本書の記載内容は、製品の仕様変更等によって、予告なく修正する場合があります。あらかじめご了承ください。  
 ・修正となった場合には、自己適合宣言書の更新によって公開いたしますので、常に最新の情報をご確認ください。

■開口部の熱貫流率について  
 ・試験値は、JIS A 4710に基づき試験により測定された代表試験体の熱貫流率です  
 ・計算値は、JIS A 2102-1に基づいて一般社団法人 リビングアムニティ協会が運営するWindEye(開口部の熱性能評価プログラム)により計算された代表試験体の熱貫流率です。  
 ・簡易的評価は、国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」の「熱貫流率及び断熱性能」に基づき計算された熱貫流率の値です。  
 ・建具とガラスの組み合わせは、一般社団法人 日本サッシ協会ホームページ内「建具とガラスの組み合わせ」による開口部の熱貫流率(住宅用窓の簡易的評価)に基づき(開口部の熱貫流率)です。  
 ・代表試験体は、国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」の「窓・ドアの熱貫流率」に関する試験体と同等の性能を有すると認められる評価品の範囲に定める基準」に基づき選定したものです。

■開口部の日射熱取得率について  
 ・国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」に基づき、JIS R 3106に基づいて一般社団法人 リビングアムニティ協会が運営するWindEye(開口部の熱性能評価プログラム)により算定されたガラスの日射熱取得率の値を用いて枠の影響を考慮した開口部の日射熱取得率です。  
 ・当社ホームページ内「① 建具とガラスの組み合わせ、開口部の日射熱取得率」の値もご使用いただけます。

## ■ガラス構成ごとの開口部の熱貫流率区分・開口部の日射熱取得率

ガラス構成	熱貫流率区分	日射熱取得率	アルゴンガス入り												空気											
			一般ガラス						合わせガラス*						一般ガラス						合わせガラス*					
			透明		型		透明(30mil)		型(30mil)		透明(60mil)		型(60mil)		透明		型		透明(30mil)		型(30mil)		透明(60mil)		型(60mil)	
P3P3	P4P4	P5P3	P5P5	F4P3	F4P4	F4P5	XAP3	XAP4	XJP3	XJP4	YAP3	YJP3	P3P3	P4P4	P5P3	P5P5	F4P3	F4P4	F4P5	XAP3	XAP4	XJP3	XJP4	YAP3	YJP3	
室外ガラス厚			3	4	5	5	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	
中空層厚			16	14	14	12	15	14	13	13	12	13	12	12	12	16	14	14	12	15	14	13	13	12	12	
室内ガラス厚			3	4	3	5	3	4	5	3	4	3	4	3	3	3	4	3	5	3	4	3	4	3	3	
Low-E	遮熱ブルー ☆		①	①	①	②	①	①	①	①	②	①	②	②	②	③	④	④	⑤	③	④	⑤	④	⑤	⑤	⑤
	ブルー		①	①	①	②	①	①	①	①	②	①	②	②	②	③	④	④	⑤	③	④	⑤	④	⑤	⑤	⑤
	ブロンズ		①	①	①	②	①	①	①	①	②	①	②	②	②	③	④	④	⑤	③	④	⑤	④	⑤	⑤	⑤
	ニュートラル		①	①	①	②	①	①	①	①	②	②	②	②	②	③	④	④	⑥	③	④	⑤	⑤	⑥	⑤	⑤
Low-E	遮熱ブルー ☆	0.28	0.29	0.28	0.29	0.28	0.29	0.29	0.28	0.29	0.28	0.29	0.28	0.28	0.29	0.29	0.29	0.29	0.29	0.29	0.28	0.29	0.28	0.29	0.28	0.28
	ブルー	0.32	0.34	0.32	0.34	0.32	0.34	0.35	0.31	0.32	0.31	0.32	0.31	0.31	0.32	0.34	0.32	0.34	0.35	0.31	0.32	0.31	0.32	0.31	0.31	0.31
	ブロンズ	0.31	0.31	0.31	0.30	0.31	0.31	0.30	0.29	0.30	0.29	0.30	0.29	0.29	0.31	0.31	0.31	0.30	0.31	0.31	0.30	0.30	0.30	0.30	0.29	0.29
	ニュートラル	0.45	0.43	0.44	0.43	0.44	0.43	0.44	0.41	0.41	0.41	0.41	0.41	0.41	0.41	0.45	0.43	0.44	0.43	0.44	0.43	0.43	0.41	0.41	0.41	0.41

・ガラス構成ごとの開口部の熱貫流率区分・開口部の日射熱取得率は当社製ガラスの代表的なガラス構成に基づいて求めたものになります。本書に記載のない当社製ガラスを適用する場合、及び当社製ガラス以外のガラスを適用する場合には、以下にて対応してください。  
 ・開口部の熱貫流率:各附属書に記載の「開口部の熱貫流率 性能一覧」にてガラス中央部の熱貫流率の値より性能値を参照してください。  
 ・開口部の日射熱取得率:適用するガラスのメーカーのホームページ内の、窓等の開口部の日射熱取得率に関する資料を参照してください。  
 ・※当社ホームページ内「YKK APの対象製品(平成28年省エネルギー基準対応)①建具とガラスの組み合わせ」の「開口部の日射熱取得率」の値もご使用いただけます。  
 ・熱貫流率区分ごとの性能値は「開口部の熱貫流率 性能一覧」の各区分記号の行を参照してください。  
 ・合わせガラスの呼称は、中間膜の厚みが30milのものは「安全合わせガラス」、60milのものは「防災安全合わせガラス」となります。  
 ・☆ 室内外ガラス構成は反転します。

### ■開口部の熱貫流率 性能一覧

樹脂スペーサー仕様

区分記号	ガラス中央部の熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K]	開口部の熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K]				試験値	計算値	簡易的評価	建具とガラスの組合せ
		付風部材無し	付風部材あり	※障子あり	※障子無し				
①	1.2 以下	1.36	1.28	1.23	1.20	○			
②	1.3 以下	1.42	1.34	1.28	1.25	○			
③	1.4 以下	1.58	1.48	1.41	1.37	○			
④	1.5 以下	1.84	1.70	1.62	1.56		○		
⑤	1.6 以下	1.91	1.76	1.67	1.61		○		
⑥	1.7 以下	1.92	1.77	1.68	1.62		○		

### アルミスペーサー仕様

区分記号	ガラス中央部の熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K]	開口部の熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K]				試験値	計算値	簡易的評価	建具とガラスの組合せ
		付風部材無し	付風部材あり	※障子あり	※障子無し				
①	1.2 以下	1.42	1.34	1.28	1.25	○			
②	1.3 以下	1.51	1.42	1.35	1.32	○			
③	1.4 以下	1.64	1.53	1.46	1.41	○			
④	1.5 以下	1.90	1.75	1.66	1.60		○		
⑤	1.6 以下	1.98	1.82	1.72	1.66		○		
⑥	1.7 以下	1.99	1.83	1.73	1.66		○		

※障子は和障子などを示す。

# \*GX志向型住宅とは〈開口部の仕様例〉 建具とガラスの組み合わせ (告示)

YKK APの対象製品一覧 (平成28年省エネルギー基準対応)

2020年5月27日作成  
2025年2月3日改訂  
YKK AP株式会社

「建具とガラスの組み合わせ」による開口部の熱貫流率 (建具の仕様とガラス性能から算出)

平成28年省エネルギー基準・木造・・・窓・框ドア・引戸 (大部分がガラスで構成される開口部)

当一覧表は、国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報」、及び一般社団法人 日本サッシ協会ホームページ内「建具とガラスの組み合わせ」による開口部の熱貫流率表 (住宅用窓の簡易的評価による) に基づいています。

建具の仕様	ガラスの仕様		中空層の仕様		開口部の熱貫流率 [W/(㎡K)]※2				YKK AP対象製品一覧
			ガスの封入※1	中空層の厚さ	付属部材無し	シャッター・雨戸付	和障子付	風除室あり	
樹脂製建具 又は 木製建具	三層複層ガラス	Low-Eガラス2枚	されている	13mm以上	1.60	1.49	1.43	1.38	・APW 430+/431+ ・APW 430/431【※3】 ・APW 430/431防火窓【※4】
				10mm以上13mm未満	1.70	1.58	1.51	1.46	・APW 430/431 (引違い窓・シャッター付引違い窓・引違いテラス戸・シャッター付引違いテラス戸) ・APW 430/431防火窓 (シャッター付引違い窓・シャッター付引違いテラス戸)
		Low-Eガラス1枚	されている	10mm以上	1.90	1.75	1.66	1.60	-
	複層ガラス	Low-Eガラス	されている	10mm以上	2.15	1.96	1.86	1.77	・APW 330/331 ・APW 330/331防火窓 ・フラマードH
				8mm以上10mm未満	2.33	2.11	1.99	1.89	・フラマードH
				8mm未満	2.91	2.59	2.41	2.26	・APW 330/331 ・APW 330/331防火窓 (シャッター付引違い窓・シャッター付引違いテラス戸・たてすべり出し窓 (グレモンハンドル仕様) 単窓 たてすべり出し窓 (オペレーターハンドル仕様) ・すべり出し窓 (グレモンハンドル仕様) 単窓・FIX窓) ・APW 230 ・フラマードH
			されていない	14mm以上	2.15	1.96	1.86	1.77	・APW 330/331 ・APW 330/331防火窓 (シャッター付引違い窓・シャッター付引違いテラス戸・たてすべり出し窓 (グレモンハンドル仕様) 単窓 たてすべり出し窓 (オペレーターハンドル仕様) ・すべり出し窓 (グレモンハンドル仕様) 単窓・FIX窓) ・APW 230 ・フラマードH
				11mm以上14mm未満	2.33	2.11	1.99	1.89	・APW 330/331 ・APW 330/331防火窓 ・APW 230防火窓 ・フラマードH
				11mm未満	2.91	2.59	2.41	2.26	・APW 330/331防火窓 (たてすべり出し窓 (グレモンハンドル仕様) FIX連窓・FIX窓) ・フラマードH
		一般ガラス	されていない	13mm以上	2.91	2.59	2.41	2.26	・フラマードH
				13mm未満	3.49	3.04	2.82	2.59	・フラマードH

※3 引違い窓・シャッター付引違い窓・引違いテラス戸・シャッター付引違いテラス戸を除く

※4 シャッター付引違い窓・シャッター付引違いテラス戸を除く

## \* STEP2 〈設備計算(WEBプログラム)〉

### 一次エネルギー消費量計算結果(住宅版)

#### 1. 住宅タイプの設計一次エネルギー消費量等

(1)住宅タイプの名称(建て方)	GX adl *エコキュート(戸建住宅)			
(2)入力責任者	沖田 光平			
(3)住戸の評価方法	住戸全体を対象に評価する			
(4)床面積	主たる居室	その他の居室	非居室	合計
	28.49m <sup>2</sup>	36.00m <sup>2</sup>	32.52m <sup>2</sup>	97.01m <sup>2</sup>
(5)地域の区分/年間の日射地域区分	6地域		A4区分(年間の日射量が多い地域)	
(6)一次エネルギー消費量(1戸当り)			設計一次[MJ]	基準一次[MJ]
	暖房設備		11420	13698
	冷房設備		3743	4916
	換気設備		966	3665
	給湯設備		12141	22953
	照明設備		3628	9226
	その他の設備		20145	20145
	発電設備の発電量 のうち自家消費分	太陽光発電(PV)	-17383	--
		コージェネレーション設備 (CGS)	--	--
コージェネレーション設備の売電量に係る控除量 *1		--	--	
(7)合計	PVおよびCGSを対象とする場合		34661	74604
	CGSを対象とする場合		52043	

本計算結果は、当該住戸が建設される地域区分及び設計内容に、一定の生活スケジュールに基づく設備機器の運転条件等を想定し計算されたもので、実際の運用に伴うエネルギー消費量とは異なります。

(6)の各用途内訳を足した値と合計は四捨五入の関係で一致しないことがあります。

\*1: コージェネレーション設備が売電した電力を発電するために要した一次エネルギー消費量相当量です。

QRコードは自動処理のために用います。



XML ID : c0d6fa55-b888-4ca7 再出力コード : OCDW-BVW\*-THOV-E#JU

## 2. 判定

適用する基準			一次エネルギー消費量[GJ/(戸・年)]		判定結果
			設計一次エネルギー	基準一次エネルギー	
建築物省エネ法	建築物エネルギー消費性能基準	H28年4月以降	34.7	74.7	達成
		H28年4月現存		80.1	達成
	建築物エネルギー消費性能誘導基準	R04年10月以降	52.1	63.8	達成
		R04年10月現存		74.7	達成
エコまち法	エネルギーの使用の合理化の一層の促進のために誘導すべき基準	R04年10月以降	52.1	63.8	達成
		R04年10月現存		69.2	達成
	低炭素化の促進のために誘導すべきその他の基準		19.9	47.4	達成

一次エネルギー消費量の値は小数点以下一位未満の端数を切り上げているため、「1. 住宅タイプの設計一次エネルギー消費量等」の(6)の合計と一致しないことがあります。

気候風土適応住宅の判定は建築物エネルギー消費性能基準の値で読み替えてください。

### 3. BEI

適用する基準		一次エネルギー消費量(その他除く)[GJ/(戸・年)]		BEI
		設計一次エネルギー	基準一次エネルギー	
建築物省エネ法	建築物エネルギー消費性能基準	14.6	54.5	0.27
	建築物エネルギー消費性能誘導基準	31.9		0.59
	特定建築主基準	14.6		0.27
エコまち法	エネルギーの使用の合理化の一層の促進のために誘導すべき基準	31.9		0.59

BEI計算時の一次エネルギー消費量はその他のエネルギー消費量除きます。建築物エネルギー消費性能誘導基準にはPVによる削減効果を除外して評価します。

気候風土適応住宅のBEIは建築物エネルギー消費性能基準の値で読み替えてください。

#### 4. 住宅タイプの仕様

##### (1) 暖冷房仕様

外皮 / 設備項目		外皮 / 設備の仕様
A. 外皮	外皮性能の評価方法	当該住戸の外皮面積を用いて外皮性能を評価する
	外皮面積の合計	263.25 m <sup>2</sup>
	外皮平均熱貫流率	0.46 W/m <sup>2</sup> K
	平均日射熱取得率	暖房期の平均日射熱取得率 (ηAH) : 1.0 冷房期の平均日射熱取得率 (ηAC) : 1.3
	通風の利用	主たる居室:評価しない、または利用しない その他の居室:評価しない、または利用しない
	蓄熱の利用	評価しない、または利用しない
	床下空間を經由して外気を導入する換気方式の利用	評価しない、または利用しない
B. 暖房設備	暖房方式	居室のみを暖房する
	設備仕様	【主たる居室】 ルームエアコンディショナー エネルギー消費効率の区分: 区分 (い) 小能力時高効率型コンプレッサー: 評価しない、または搭載しない 【その他の居室】 暖房設備機器または放熱器を設置しない
C. 冷房設備	冷房方式	居室のみを冷房する
	設備仕様	【主たる居室】 ルームエアコンディショナー エネルギー消費効率の区分: 区分 (い) 小能力時高効率型コンプレッサー: 評価しない、または搭載しない 【その他の居室】 設置しない

##### (2) 換気仕様

設備項目	設備の仕様
D. 換気	壁付け式第二種換気設備、または壁付け式第三種換気設備 比消費電力: 0.05 換気回数: 0.5回/h
E. 熱交換	評価しない、または設置しない

##### (3) 給湯仕様

設備項目	設備の仕様	
F. 給湯設備	給湯設備・浴室等の有無	給湯設備がある (浴室等がある)
	熱源機	熱源機の種類: 電気ヒートポンプ給湯機 (CO2冷媒またはR32冷媒) (太陽熱利用設備を使用しないもの) 電気ヒートポンプ給湯機の指定: 品番を指定しない (JIS効率を入力する) 効率 (JIS効率): 3.5 昼間沸上げ: 評価する 昼間沸上げの仕様の入力: 入力する 昼間沸上げ時間帯の制御: 開始時刻制御 昼間消費電力量比率: 80% ふる機能の種類: ふる給湯機 (追焚あり)
	配管	ヘッダー方式 (ヘッダー分岐後のすべての配管径が13A以下)
	水栓	台所: 2バルブ水栓以外のその他の水栓 (手元止水機能・水優先吐水機能) 浴室シャワー: 2バルブ水栓以外のその他の水栓 (手元止水機能・小流量吐水機能) 洗面: 2バルブ水栓以外のその他の水栓 (水優先吐水機能)
	浴槽	高断熱浴槽を使用する

## (4) 照明仕様

設備項目	設備の仕様	
G.照明設備	主たる居室	すべての機器においてLEDを使用している 多灯分散照明方式：評価しない、または採用しない 調光が可能な制御：採用する
	その他の居室	すべての機器においてLEDを使用している 調光が可能な制御：採用する
	非居室	すべての機器においてLEDを使用している 人感センサー：採用する

## (5) 発電仕様

設備項目	設備の仕様	
H.太陽光 発電設備	設備仕様	発電の評価：評価する
	方位の異なるパネルの面数	1面
	その1	太陽電池アレイのシステム容量:2.90kW 太陽電池アレイの種類:結晶シリコン系太陽電池 太陽電池アレイ設置方式:屋根置き形 パネル設置傾斜角:20度 パネルの設置方位角:真南から東および西へ15度未満
	その2	*****
	その3	*****
	その4	*****
	パワコン	パワーコンディショナの定格負荷効率:95.0%
I.コージェネレーションシステム	なし	

## (6) 太陽熱利用設備仕様

設備項目	設備の仕様	
J.液体集熱式太陽熱利用給湯	評価しない、または設置しない	
K.空気集熱式太陽熱利用設備	設備仕様	評価しない、または設置しない
	集熱器群の数・方位	*****
	集熱器群1	*****
	集熱器群2	*****
	集熱器群3	*****
	集熱器群4	*****

5. 参考値

(1) 設計二次エネルギー消費量等（参考値）

設計二次エネルギー消費量			コージェネレーション設備の売電量に係るガス消費量の控除量[MJ] *2	未処理負荷の設計一次エネルギー消費量相当値[MJ] *3
消費電力量[kWh] *1	ガス消費量[MJ]	灯油消費量[MJ]		
3196	3420	0	0	51

\*1：当該住戸で消費する電力量から、太陽光発電設備およびコージェネレーション設備による消費電力削減量（発電量のうち、当該住戸で消費される自家消費分）を差し引いた値を表記しています。

\*2：コージェネレーション設備が売電した電力を発電するために要したガス消費量相当量です。

\*3：未処理負荷とは、当該住戸に設置された暖冷房設備機器で処理できなかった負荷を指し、負荷を処理した暖冷房設備機器とは別の、何らかの暖冷房設備で処理したと仮定して、設計一次エネルギー消費量相当値に換算しています。

(2) 発電量・売電量（参考値） \*1

発電量[MJ]		売電量[MJ]	
コージェネレーション	太陽光発電	コージェネレーション	太陽光発電
0	32163	0	14780

\*1：すべて一次エネルギーに換算した値



建築物の名称 ※下欄と同じ場合は不要		計算書Ver	3.9.0
計算書の物件名 及び 建て方※	GX adl * エコキュート(戸建住宅)	計算書日時	2025/11/29 14:18:25

1. 外皮性能・基準判定

※住宅の建て方について、戸建住宅は「戸建住宅」、併用住宅は「共同住宅」を使用して下さい。

外皮性能評価方法	当該住戸の外皮面積を用いて外皮性能を評価する		地域区分	計算対象床面積	
設計 外皮平均熱貫流率 UA値 W/m <sup>2</sup> K	0.46		6	地域	97.01 m <sup>2</sup>
設計 冷房期の平均日射取得率 ηAC値	1.3		※5-1等級6、等級7は2022年10月1日施行		
等級	省エネ基準 / 5-1等級4	強化外皮基準 / 5-1等級5	5-1 等級6		5-1 等級7
基準UA値	0.87 ○	0.60 ○	0.46	○	0.26 —
基準ηAC値	2.8 ○	2.8 ○	2.8	○	2.8 ○
省エネ基準・誘導基準の判定	省エネ基準	適合	誘導基準	適合	※上記5-1等級は、別途「結露の発生を防止する対策に関する基準」を満たす必要があります

2. 一次エネルギー消費量計算結果

(1) 住宅の一次エネルギー消費量 (1戸当り)		設計一次エネルギー消費量	基準一次エネルギー消費量
暖房設備	MJ/年	11,420	13,698
冷房設備	MJ/年	3,743	4,916
換気設備	MJ/年	966	3,665
給湯設備	MJ/年	12,141	22,953
照明設備	MJ/年	3,628	9,226
その他の設備	MJ/年	20,145	20,145
発電設備の 発電量のうち自家消費分	太陽光発電	MJ/年	-17,383
	コージェネレーション設備	MJ/年	0
コージェネレーション設備の売電量に係る控除量	MJ/年	0	
合計	PVおよびCGSを対象とする場合* MJ/年	入力対象外	
	CGSを対象とする場合* MJ/年		
建築物エネルギー消費性能基準	BEI / 6段階表示	0.27	☆☆☆☆☆★
建築物エネルギー消費性能誘導基準	誘導BEI / 4段階表示	0.59	☆☆☆☆
発電量(コージェネレーション)	MJ/年	0	↑ ☆:普通星、★:強調星
発電量(太陽光発電)	MJ/年	32,163	6段階表示において、再エネなしと再エネありが同じ星数の場合は、普通星を優先して表示します
売電量(コージェネレーション)	MJ/年	0	
売電量(太陽光発電)	MJ/年	14,780	

3. エネルギー削減量、エネルギー削減率の計算結果

4. BELS・ZEH等判定

削減率(%)

BEI

再生可能エネルギー等を除いた (その他除く)	設計一次エネルギー消費量	31.9	GJ/年	再エネなし(4段階は全て右記)	41%	0.59
	エネルギー消費削減量	22.6	GJ/年	再エネあり(自家消費分)	73%	0.27
	削減率	41	%	再エネあり(自家消費分+売電分)※	100%	0.00
再生可能エネルギー等を加えた (その他除く)	設計一次エネルギー消費量	-0.2	GJ/年	『ZEH』	適合	※2025年4月以降、再エネあり(自家消費分+売電分)にはCGSの売電分は含まれません
	エネルギー消費削減量	54.7	GJ/年	Nearly ZEH	—	
	削減率	100	%	ZEH Oriented※別途要件有	適合	

ZEH Orientedの場合、BELS評価書に再生可能エネルギー等を加えた削減率は表示されません

判定計算書の計算結果の値はBELS評価書と多少の誤差が生じる場合があります。その場合は評価書を正として下さい。

5. 5-2一次エネルギー消費量等級判定

5-2	設計 その他含GJ	基準 その他含GJ	判定	床面積当たりの一次 エネルギー消費量 MJ/(m <sup>2</sup> ・年)	エネルギー利用効率化設備(CG除外)による 設計一次エネルギー消費量の削減率※	
等級8※	52.1	55.6	適合	538	33%	61%
等級7※		58.3	適合			
等級6		63.8	適合			
等級5	34.7	69.2	適合	※がある項目は2025年12月1日以降の新規申請より適用		
等級4		74.7	適合			

6. 低炭素・誘導基準判定 R04年10月以降

低炭素・誘導基準	52.1	63.8	適合	外皮判定含	エネルギーの使用の合理化の一層の促進のために誘導すべき基準
低炭素その他基準	19.9	47.4	適合	一次エネ判定のみ	低炭素化の促進のために誘導すべきその他の基準
低炭素基準・戸建ての判定	適合			低炭素基準及びその他基準を含んだ判定	